

和歌山大学南紀熊野サテライト開設5周年記念事業を実施しました <山本資料5>

12月23日(木・祝)、和歌山大学南紀熊野サテライトにて開設5周年記念事業「南紀熊野でワダイを発信—地域から宇宙まで—」をサテライトオフィスのある和歌山県立情報交流センターBig・Uにて実施し、地域住民、学生、大学関係者合わせて約250名が参加しました。

記念講演1として教育学部本山貢教授による「熊野古道も元気に歩ける！脳トレと筋トレが同時に出来るシニアエクササイズ」と題した記念講演とエクササイズの実演。

その後、学生・院生研究発表として、本学が「南紀熊野」を題材とした学生の自主的な活動や研究を支援する「心に響く現物教育プロジェクト」の採択演習であり、和歌山県古座川町の北海道大学和歌山研究林や古座川を活用した自然体験やエコツアーを調査しているチームリーダーのシステム工学部学生、近藤洋平さんが「古座川での自然体験で学んだこと」をテーマに中間報告を行いました。

近藤さんは報告の中で、「講義などで学んできたことを実際に肌で感じることができ、より深い理解を得ることが出来た。地域について考える機会を得られた。

現場に来ないと分からないことがたくさんあることを知った。せっかく和歌山大学に入学したので、もっと南紀熊野で学びたい。」と話されていました。

また、南紀熊野サテライトで経済学修士号を取得した松下精二さんが「修士修了後とその後」をテーマにして、研究された木質バイオマスのあり方や、和歌山県田辺市における利用可能性について報告。報告の中で松下さんは、「学びの中で地域や大学とのネットワークも広がった。今後も地域の環境や地球温暖化防止の活動に役立てたい」と話されました。

続く記念講演2では、「紀伊半島学」の研究報告として、本学が紀伊半島で取り組む情報通信から観光、教育、高齢化、経済に至るまでの10のテーマを、システム工学部井伊博行教授を代表者とする12名の教員が報告されました。

記念講演3では、観光学部尾久土正己教授による「熊野から宇宙へ」と題し、小惑星探査機「はやぶさ」の地球帰還映像の秘話や和歌山における宇宙港の可能性についての講演。

また、会場の2階にあるプラネタリウムでは、ゼミ生が研究している360度ドームを活用した新しい観光映像紹介「熊野古道—中辺路を歩く」も上映されました。

このほかにも、地域の特産品の販売や経済学部鈴木裕範ゼミの学生が地域と協働して作ったお米「太田米」の販売や、和歌山大学学生によるよさこいチーム「和歌乱」に

よる演舞、進学相談会、パネル展示を行いました。

その後、会場を移して「地域と和歌山大学の交流会」を実施し、地域の皆さんと本学教員がさまざまな意見交換を行い交流を深めました。

また、5周年記念事業の前日には、地域型サテライトを設置する大学が集まって今後の役割や課題を共に議論する「地域型大学サテライト拠点情報交換会」を本学地域創造支援機構が主催で実施。

交換会には、北海道から四国、中国地方までの国公私立大学をあわせて10大学・約40名の参加がありました。



「大震災後の日本再建と新しい公共」 ～今、大学と生涯学習の役割を問う！～

日時 平成23年11月23日(水・祝)13:00～17:00
場所 和歌山大学地域連携・生涯学習センター(和歌山市西高松)
参加者 国立大学関係者、行政職員、一般市民 約 200名
参加費 無料
主催 社団法人国立大学協会 和歌山大学
後援 文部科学省(予定) 和歌山県教育委員会(予定)
概要

●開会行事

挨拶 山本健慈 (和歌山大学長)
祝辞 仁坂吉伸氏(和歌山県知事)

●記念講演「大震災後の日本再建と新しい公共の力(仮題)」 鈴木寛氏(文部科学副大臣 予定)

●フォーラム1 「地域震災復興計画策定過程から見てきた地方国立大学の 役割(仮題)」

報告

藤井克己氏(岩手大学長・岩手県東日本大震災津波復興委員会委員長)
鈴木浩氏(福島大学名誉教授・福島県復興ビジョン検討委員会座長)

聞き手

山本健慈 (和歌山大学長)

●フォーラム2 「震災後の地域にとっての生涯学習・大学の役割(仮題)」

塩見みづ枝氏(文部科学省社会教育課長)
石井山竜平氏(東北大学准教授)
高橋興氏(青森学院大学教授・中央教育審議会委員)
小川雅則氏(田辺市生涯学習課長)

コーディネイター

堀内秀雄 (和歌山大学理事・副学長)

●閉会行事

※主催・後援については現在調整中